

令和7年 7月 7日

総務建設常任委員会研修会

伊藤 治雄 委員長 様

委員 水谷 喜和

研 修 報 告 書

市	<u>令和7年 6月27日（金）</u> 午前10時～ 11時30分
研修（視察）先	桑名市庁舎 現地デマンドバス乗車
目的（テーマ等）	MaaS推進室の取組みについて
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

〔委員（議員）氏名： 水谷喜和〕

研修概要、内容、所感

市長公室 政策創造課 MaaS 推進室 山口 昌輝 室長補佐
伊藤 昭人 主幹
近藤 翔太 主査 他数名

MaaS 推進室について

Mobility as Service(サービスとして移動)の略語

- ・ 出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに提供する等、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスと捉える概念。

市民満足度調査における公共交通の評価

「公共交通」の分野は重要度が高い反面、満足度は低い・や・・・「公共交通」を市の重要政策である「3つのミッション」一つに位置付ける。

鉄道やバス、タクシーなどの民間交通を地域交通の軸と位置づけ、市はこれらを補完のために、地域内の移動手段を提供する。

AI 活用型オンデマンドバスの取組み

コミュニティバスの課題

運行本数が少ない 目的地に直線距離で到達できない 乗り換え困難 赤字経営 定時性に欠ける 鉄道との接続が困難 既存路線バスとの重複 ルート変更のみ空白地を埋めるには困難・・・課題に対応するために、デマンド乗合サービスを含めた新たな公共交通サービスの展開を検討する。

AI オンデマンドバスの概要

- ・ 利用者のニーズに合わせて運行するデマンド型乗合バス
- ・ アプリか電話で予約受付、AI システムによるルート検索配車による効率運行実現
- ・ 社会実装の実現可能性を探るため、令和3年度より実証実験を開始する。

地域・関係者との合意形成

- ・ 実証実験の実施に際し、地元交通事業者や住民との合意形成を図るため、事業の目的や趣旨等について説明を実施。
- ・ 地域公共交通会議の委員を始め、地域の関係者に対して事前に報告。

AI 活用型オンデマンドバス実証実験に係る事業費

- ・ 事業費はコミュニティバスの運行経費に比べ高額になる傾向
令和5年度 事業費 1780万円（システム：約820万円、運行：約960万円）
約2か月間の実証実験に係る運用及び運行事業費、車両改造費
補助金300万円 県高齢者等の移動手段の確保に向けた地域モデル事業
住民の満足度向上のため一定の財政負担は前提としつつも、持続可能な経営のため財源確保に取り組みが課題となっている。

今後の進め方について

MaaS の推進

- ・デジタルを始めとする最新技術を活用することで、移動をシームレスに接続し、移動の全体効率化を図る。
- ・交通事業者、利用者の双方の視点を起点としたサービスの最適なあり方を検討し、持続可能な移動手段を確保する。
- ・交通単体で考えるのではなく、生活、観光など異業種と連携した付加価値の創造。

AI 活用型オンデマンドバス

- ・地域における足元の課題解決に期待
- ・コミュニティバスに代わる地域の移動手段として、引き続き事業を継続。
- ・実装に向けては、地域住民のみならず地域の交通事業者と慎重に協議していく。

所感

高齢者等の交通弱者の声は、日々に地域内で聞く。買い物や通院への移動に利用しやすいデマンドバスの導入・普及を待ち望んでいる。コミュニティバスの運行より、交通弱者に寄り添ったデマンドバス等の移動手段を僅々に町として考えなければならぬ。今直ぐに！